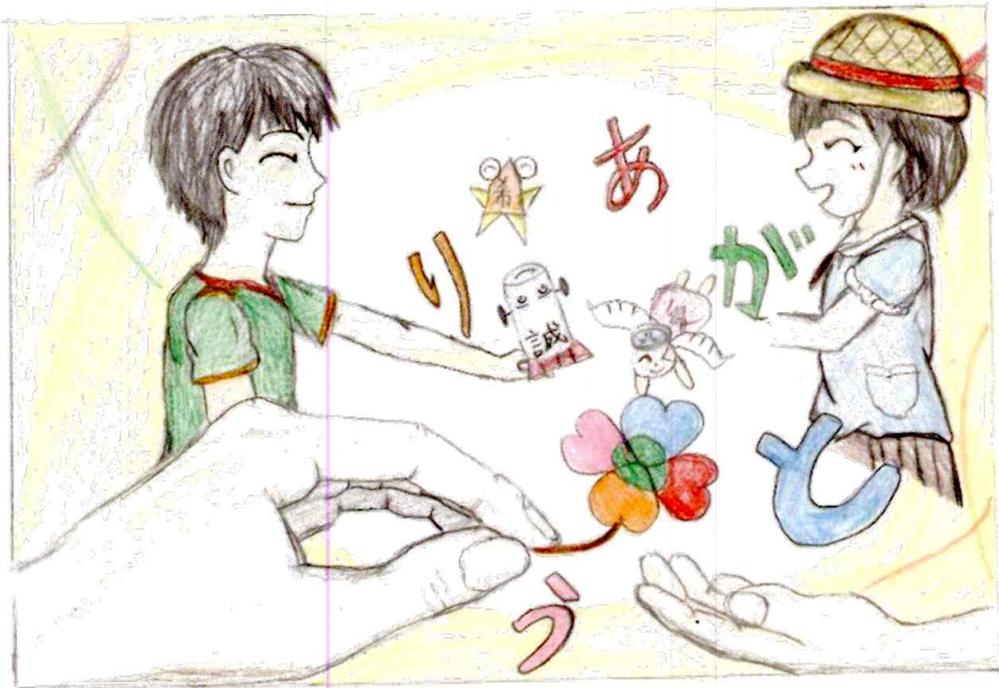


令和元年度 研究紀要



東京都奉仕・ボランティア教育研究会

目 次

・ 研究紀要発行にあたって	・・・ 2
・ 令和元年度（平成31年度）の研究計画及び月例会計画	・・・ 3
・ 月例会報告	・・・ 4
・ スクールボランティアサミット2019報告	・・・ 6
・ 奉仕・ボランティア教育研究会拡大研修会報告	・・・ 10
・ 実践事例報告	・・・ 12
・ VIOLET!! 活動紹介チラシ	・・・ 19
・ 東京都奉仕・ボランティア教育研究会公式ホームページの御案内	・・・ 20
・ 令和元年度（平成31年度）東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員名簿	・・・ 21

研究紀要発行にあたって

東京都奉仕・ボランティア教育研究会

会長 吉田 寿美

(東京都立豊多摩高等学校長)

「東京都奉仕・ボランティア教育研究会」は、平成23年度に発足し今年度で9年目を迎えます。東京都が全都立高校で必修化した教科・科目「奉仕」における授業実践と設置目的の「社会の一員の自覚」と「規範意識と社会貢献意識の醸成」等の育成に向け発足した研究会です。「ボランティア教育」について関心をもつ教育者やボランティア関係団体の方々が集まる研究会として、活動しています。

令和2年度から小学校、令和3年度から中学校、令和4年度から高等学校で、新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が謳われ、特別の教科「道徳」や「総合的な学習の時間」（小・中学校）、「総合的な探究の時間」（高等学校）における指導の充実が期待されています。

「総合的な探究の時間」（高等学校）では、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」と謳われています。そこで、本研究会では、今年度のテーマを「総合的な探究の時間」（高等学校）を念頭に置き、ボランティア体験学習における探究学習の在り方を、様々な学校の実践研究や専門家による講演会を行いながら、追求してきました。

印象的だったことは、例え課題意識をもたずにボランティア体験学習に参加しても、活動することで課題意識が醸成されることもあるということでした。もちろん予め課題意識をもちボランティア体験学習を行うと、質の高い探究学習につながることは言うまでもありませんが、実際に活動することで、生徒の心が揺り動かされ課題意識をもつこともあるということです。体験活動のもつ力です。

ボランティア活動の4原則は、①自分からすすんで行動する（自主性・主体性）、②ともに支え合い、学び合う（社会性・連帯性）、③見返りを求めない（無償性・無給性）、④よりよい社会をつくる（創造性・開拓性・先駆性）です。研究会では、各学校の実態に応じた無理なく続けられるボランティア体験学習を提唱しています。「お互い様」の気持ちで、もちつもたれつ、できることを行っていく。この姿勢が原点だと考えています。さらに、学校でのボランティア体験学習が、学校外での生徒自身のボランティア活動につながる懸け橋になればと願っています。

今年度は研究会の公式ホームページも作成し、情報発信を始めました (<http://houshibora.com>)。是非、御覧ください。活動報告や活動予定も掲載されております。発足以来、研究会では、年会費を徴収しておりません。研究会の活動に興味をもたれた方は、事務局まで御連絡いただければと存じます。

最後に、本研究会の活動に御協力いただきました多くの方々に御礼を申し上げます。

令和2年3月吉日

令和元年度（平成31年度）の研究計画及び月例会計画

研究団体名	東京都奉仕・ボランティア教育研究会
-------	-------------------

研究のテーマ	次期学習指導要領を見据えた、探究型、課題解決学習型の奉仕・ボランティア教育の在り方について探る
研究の主な内容	1 オリンピック・パラリンピックに向けた教育活動の取組事例の研究 2 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の実践事例等の見学及び意見交換の実施 3 高等学校における「人間と社会」の指導法、探究活動の指導法の研究 4 スクールボランティアサミット 2019 の開催

回	実施日	研究会時間	内容	会場	備考
1	4月19日 (金)	16時45分から 19時00分まで	今年度の研究について	豊多摩高校	
2	5月17日 (金)	16時45分から 19時00分まで	役割分担、見学校状況、スクールボランティアサミットの検討、その他	豊多摩高校	
3	6月13日 (木)	16時45分から 19時00分まで	研究内容に沿った協議等	王子総合高校	
4	7月2日 (火)	13時30分から 17時00分まで	授業見学、研究協議	永福学園	
5	7月23日 (火)	14時00分から 17時00分まで	スクールボランティアサミット 2019 打合せ等	豊多摩高校	
6	8月7日 (水)	8時30分から 17時00分まで	スクールボランティアサミット 2019 (本番)	豊多摩高校	指導主事訪問
7	10月18日 (金)	16時45分から 19時00分まで	スクールボランティアサミット振り返り、研究内容に沿った協議等	練馬高校	
8	11月26日 (火)	14時45分から 17時10分まで	研究内容に沿った協議等	六本木高校	
9	12月13日 (金)	14時30分から 17時00分まで	ボランティア研究会 山田一隆先生 (岡山大学准教) 講演	東京ボランティア・市民活動センター	指導主事訪問 及び挨拶
10	1月17日 (金)	16時45分から 19時00分まで	研究内容に沿った協議等	白鷗高校	
11	2月4日 (火)	16時45分から 19時00分まで	研究内容に沿った協議等	向丘高校	
12	3月13日 (金)	16時45分から 19時00分まで	研究内容に沿った協議等	豊多摩高校	

月例会の報告

4月19日（金）16：45～18：30 第1回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：10名

内容：1. 会則、役職等について

2. 今年度の研究テーマ及び、研究会の候補日の検討

3. スクールボランティアサミット2019について

4. 研究会の組織について

5. 都教委に提出する書類等について

6. 人間と社会のアンケートについて（岡山大学 山田 一隆先生） 報告は、別ページにて

7. 人間と社会に関する情報交換

8. 「探究」活動に関する情報交換

9. 都立高校におけるボランティアサポートチームの編成について

5月17日（金）16：45～18：30 第2回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：14名

内容：1. 会則、役職等について

2. 今年度の研究テーマ及び、研究会の候補日の検討

3. 研究推進団体支援事業

4. 研究会の組織について

5. 「探究」活動に関する情報交換



6月13日（木）16：45～18：30 第3回月例会

東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者：10名

内容：1. 平成31年度5月末現在の会員名簿の確認

2. 教職員研修センターとのやりとり

3. 研究紀要について

4. スクールボランティアサミット2019について

5. 探究・人間と社会に関する情報交換

7月 2日（火）13：30～17：00 第4回月例会 兼 授業見学

東京都立永福学園 校長室 参加者：6名

内容：1. 授業見学及び、研究協議

2. 永福学園の教育課程や特色について

3. 特別支援教育について

4. SDGsの考え方



7月23日(火) 16:45~18:30 第5回月例会
東京都立豊多摩高等学校 校長室 参加者: 10名
内容: スクールボランティアサミットの準備



8月7日(水) 9:00~17:00 スクールボランティアサミット2019
東京都立豊多摩高等学校 視聴覚室 報告は、別ページにて

10月18日(金) 16:45~18:30 第6回月例会
東京都立練馬高等学校 会議室 参加者: 8名
内容: 1. スクールボランティアサミット2019振り返り
2. 11月26日(火) 六本木高校について
3. 12月13日(金) 拡大研修会について
4. 研究会ホームページについて
5. 次年度のスクールボランティアサミットについて



11月26日(火) 13:30~17:30 第7回月例会 兼 授業見学
東京都立六本木高等学校 会議室 参加者: 6名
内容: 1. 授業見学
2. 六本木高校の教育課程や特色の紹介
3. 12月13日(金) 拡大研修会について

12月13日(金) 14:30~17:00 「社会貢献活動で、児童・生徒が変わる」
東京ボランティア・市民活動センターA・B会議室 報告は、別ページにて

1月17日(金) 16:45~18:30 第8回月例会
東京都立白鷗高等学校 会議室 参加者: 8名
内容: 1. 山田先生拡大研修会振り返り
2. 東京VCより、ボランティアフェスティバルの紹介
3. 研究紀要の役割分担

2月4日(火) 16:45~18:30 第9回月例会
東京都立向丘高等学校 会議室 参加者: 8名
内容: 1. 今年度のまとめ
2. 次年度に向けた拡大研修会のテーマの意見交換
3. 情報交換

3月13日(金) 開催予定の第10回月例会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止ため中止

スクールボランティアサミット2019報告

日 時：令和元年8月7日（水）午前9時から午後5時まで

場 所：東京都立豊多摩高等学校 視聴覚室

参加者：117名

後 援：東京都教育委員会

事例紹介

○東京都立あきる野学園（特別支援学校）

都立あきる野学園から、オリンピック・パラリンピック教育の一環で行われた実践事例の報告があった。実践の大きな幹は「多様性を尊重し、共生社会の実現や、社会に貢献できる人間の育成を目指す」であり、オリンピック・パラリンピック教育が目指す人間像の①ボランティアマインド、③スポーツ志向、⑤豊かな国際感覚（特別支援学校においては、①人の役に立とうとする意欲、③多様なスポーツへの親しみ、⑤多様な人々の交流への意欲）の育成を目指す取組であった。

①ボランティアマインドの育成に関しては、地域清掃、ペットボトルキャップ収集活動、そして都教育委員会が推進する“ふくのわプロジェクト”にも取り組み、成果を出している。この活動は、都教育委員会の「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」にも事例として紹介された。③スポーツ志向に関しては、パラリンピアンを迎えての講演及び交流会の実施について報告があった。

②豊かな国際感覚に関しては、「世界ともだちプロジェクト」の一環として、アメリカをはじめとする4つの国と地域について、調べ学習、体験学習、オリパラ給食、大使館交流などにより、外国文化への関心を高める活動の報告があった。都立あきる野学園の児童・生徒だけではなく、地域を巻き込んだという印象の深い実践であった。

「都立特別支援学校における社会貢献活動モデル事業」の報告は、都教育委員会のホームページで確認することができる。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/special_needs_education/other_material.html

○神奈川県相模原市立旭小学校（小学校）

「探究」活動を主軸においた「橋本活性化プロジェクト ～未来へのたすきをつなぐ～」についての事例報告があった。具体的には、5つの飲食店と連携して地域の名物料理を共同開発する活動である。授業の展開は、「探究」活動の①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現に沿って行われた。①課題の設定としては「橋本をよりよい街にする」ということが位置付けられた。②情報の収集として、街頭調査や町づくりセンターの方を対象に行われた。これらのことにより、得られた情報を③整理・分析して必要な材料を揃え、④まとめ・表現として、具体的な解決策を考えていく取組であった。

具体的には、ある飲食店のメニューづくりや、活性化するためのインパクトのある提案など、児童の創意工夫を生かした実践であった。この活動を経験した児童からは、「地元に興味がなかったが、地元の良さを知ることによって、もっとPR活動をしていきたい。」など、変容の見られる感想が多くあった。報告者は、今後も児童や地元にとって、質の高い教育プログラムを開発していくとのことであった。当該小学校と地域との、相互の発展が期待できる事例報告であった。

○静岡県静岡市立大里中学校（中学校）

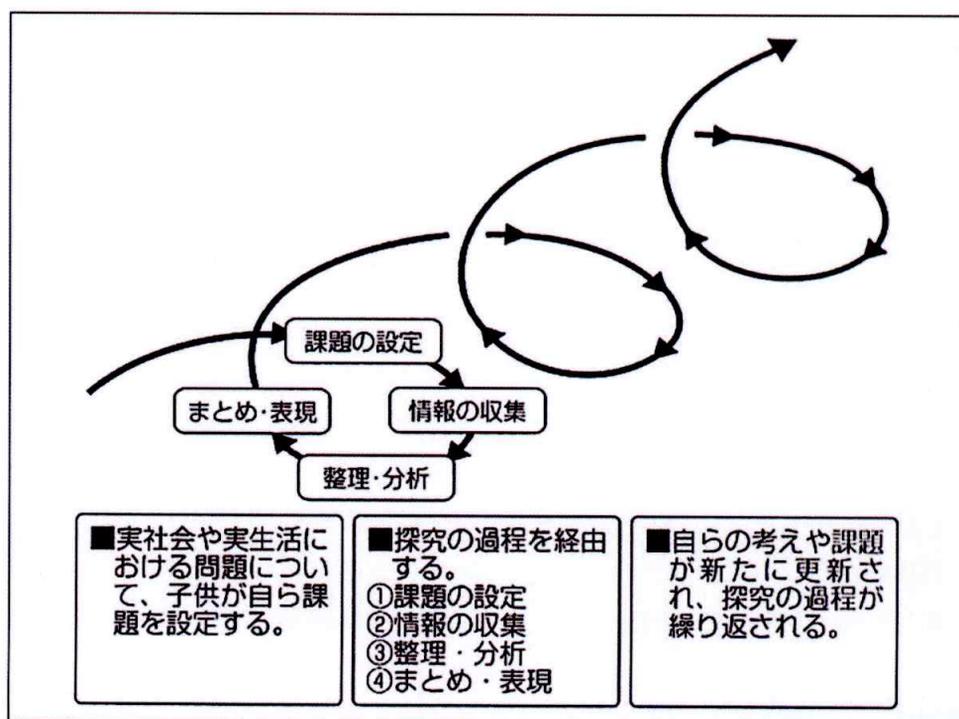
「大里ルート『静岡市を盛り上げる』と題した報告があった。大里中学校の探究のミッション（生徒への働きかけ）は、『静岡市の人口流出を止めるために、静岡市の強みを生かしたアイデアを提案せよ』で、その課題を解決するための具体的な指導とその成果についての報告であった。

静岡市は静岡県の県庁所在地で政令都市でありながら、政令都市の中で最も人口が少なく、人口が減り続け、かつ高齢化が進んでいるという課題がある。この課題を解決するため、3年間の総合的な学習の時間の指導計画を策定している。各学年、下地を作る（1年次）、下地を作り、素材を集める（2年次）、素材を集め、探究をまとめる（3年次）という大枠の中で進められていた。NPO法人や、職場体験の協賛企業等の協力を得ながら、インタビューや職場体験、調査活動なども計画的に行い、探究活動を進め、まとめにつなげていることも大里中学校の大きな取組の特徴であった。

AI研究の第一人者であるオックスフォード大学、マイケル・A・オズボーン博士の「今後10～20年程度で、アメリカの総雇用者の47%の仕事が自動化されるだろう」という予測や、令和2年度からの新しい大学入試制度などを取り上げた事例の報告があった。また、事前学習で、なぜ探究的な視点が大切かという指導も細やかにやっているところも重要なポイントであった。大里中学校では、「答えのない課題に主体的に取り組む力」「協働する力」が重要であると、3年間、計画的に総合的な学習の時間に取り組んでいることがよく分かる報告であった。

これまで50以上の探究のテーマが取り上げられた結果、自ら考え行動する生徒や、協働し新たな価値を創り出す生徒、発表時の表現の工夫する力（分かりやすく相手に伝える力）が向上した生徒が増えるなどといった大きな成果が得られたということである。

探究のスパイラルである、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の段階別にしっかりと検討し、学校や地域、生徒の特色に合わせた指導を計画していくことが大切であることを、本報告を通して再確認することができた。



探究における生徒の学習の姿

（高等学校学習指導要領解説、総合的な探究の時間編より）

○東京都立淵江高等学校（高等学校）

都立淵江高等学校は、平成30年、31年度の2年間、都教育委員会から「ボランティア活動推進校」に指定された（他5校）。都立淵江高等学校の生徒によるボランティアサポートチームの取組について、指導する教員の視点と、生徒の視点とによる報告であった。

サポートチームを作るにあたり、当初は生徒会役員とサポートチームの趣旨に興味や関心のある生徒がメンバーとなり、地域でのボランティア活動から始めていった。その際、生徒はサポートだけでなく、一緒にイベント等を楽しむことにより、更により活動になるという信念の下、様々な活動に精力的に取り組んでいった。その結果、チーム内に、常にコミュニケーションを取り合う関係ができあがっていった。このような関係が、平成30年の西日本豪雨の際に、自分たちに何かできることはないかと考えるようになり、校内での募金活動の企画につながった。その募金活動は、今年度の文化祭でも継続している。メンバーは、ボランティア活動の良さを伝えるために全校集会等で活動を紹介し、併せてメンバー募集等の広報活動も行った。これらの活動は、生徒の提案によるものであり、更に、校内新聞の発行、様々な学校行事等での広報活動などに広がっており、生徒の可能性が見いだせるものになっているとの報告があった。また、ボランティア活動をとおして生徒の自己肯定感が高められたことは、生徒の挑戦する姿勢を全力で支えていこうという教員の気持ちの変化をももたらした。生徒は、SNSを活用した情報発信にも興味を示しており、次のステップに向けた話し合いも始まっているとの報告もあった。

なお、淵江高校は、平成30年度「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」の特別賞を、東京都知事から受賞している。

基調講演

日本女子大学人間社会学部教育学科教授 田中 雅文 先生

「ボランティア体験学習における『探究』の意義と進め方」をテーマに御講演いただいた。新学習指導要領のスタートにあたり、「社会に開かれた教育課程」について、よりよい社会を作っていこうという意欲を学校と社会とが共有し、又、社会との連携や協働していくことが重要となるのお話が冒頭にあり、講演がスタートした。

ボランティア体験学習の意味や意義についての交通整理をしていただいた上で、NPO法人とのタイアップが、人と人との新しい「つながり」を促進する鍵となることや、ボランティア活動と学習の循環的発展により、「幸せのスパイラル」なるものが構成されていくことなど、ボランティア活動と学習とをしっかりとマネジメントしていくことの大切さが示された。

ボランティア体験学習は、主体的・対話的で深い学びとしても有効であり、事前学習→体験学習→リフレクション（事後学習）の中でも、特に事後学習が、次の活動に結び付く重要なプロセスであるとの指摘があった。国立青少年教育振興機構の調査にもあるように、生活体験が豊富な子供ほど自立的行動習慣が身に付いていく。体験活動は、今後ますます教育において重要となっていく。

また、地域や社会を舞台に、ボランティア体験学習に取り組むことで、生徒の活動は主体的・対話的なものとなり、自ら課題を見付け、「探究」的になっていく。このことにより、これからの社会を生きていく力を育むことができるとの示唆があった。

ワークショップ

1 ワークショップ Part 1

テーマ「高校生ボランティア部の取組」

ワークショップ Part 1 では、都立練馬高等学校、開智日本橋学園中学高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、都立稔ヶ丘高等学校の代表生徒、そしてファシリテーターの正木主幹教諭とで、パネルディスカッションを行い、まず、各校の生徒からボランティア活動の取組を報告してもらった。各校の特色ある活動や活動の中で気付いたこと、得たこと、新たに芽生えた考えなどを発表してもらったところ、活動の輪を広げていく中での積極的な取組、新たに考えたことなど、高校生らしい気付きがあり、更に考えが深まったこと、挑戦してみたいことなどについて述べていた。その上で、その活動で培った力を今後の活動に活かしていきたいなど、力強い話があった。

2 ワークショップ Part 2

テーマ「奉仕・ボランティア教育は“探究”しようとする“心”を育むか

～“探究”しようとする意欲を育てるためには、どのような活動が有効か～

御参加いただいた方々を違う校種や違う職業で構成する 7～8 人のグループに分けてワークショップ Part 2 を行った。まず、「総合的な探究（学習）の時間」についてパワーポイントで解説したのちに、テーマに沿ってアイデアを考えていくという方法で行った。

アイデアの考え方 ①ターゲットはどの世代でも OK(例えば小・中連携でも)

②なぜ、そのアイデアを考えたのか、そのアイデアで期待できること

③グループ毎発表

どのグループも自校や職場での実践事例や過去の経験を含め、活発に意見を出し合っていた。皆から出た考えを付箋紙に書き、考えや探究方法をグルーピングして、話し合いを深めていった。新規採用の教員が多く集まっていたこともあり、若手教員からの積極的な意見は新鮮であり、貴重であった。児童・生徒の目線を大切に、教員主導型ではない方法とはどういったものが考えられるか。児童・生徒の発想や考えをどのように活かし、助言を大切にしつつ、積極的な取組を促すことができるかが、探究心を芽生えさせる方向付けになるのではとの考えも出された。新学習指導要領の実施に向けて、参考になる取組が見えたワークショップであった。アンケートでは同じ職種の方が話しやすいという意見や時間配分に対する意見もあったが、人間関係の広がりや自分の視点が広がったなどの肯定意見も多数あった。



昼休み(高校生によるバルーンアート)



ワークショップPart1(高校生ボランティア活動紹介)



ワークショップPart2(奉仕・ボランティアを探究する・グループワーク)

奉仕・ボランティア教育研究会拡大研修会報告

日 時：令和元年12月13日（金）午後2時から午後5時まで

場 所：東京ボランティア・市民活動センター A・B会議室

参加者：28名

本研修では、新学習指導要領が、令和2年度より小学校で、令和3年度より中学校で、令和4年度より高等学校で全面実施されることを踏まえ、特別の教科「道徳」や「総合的な学習の時間」（小・中学校）、「総合的な探究の時間」（高等学校）における指導の一層の充実を図るため、岡山大学地域総合研究センター准教授の山田一隆先生より御講演いただいた。山田先生からは、児童・生徒がこれからの社会をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する方策として、社会体験活動などの体験的な学びを通して、主体的・対話的で深い学びを実践することの重要性を示していただいた。また、教科横断的な視点や、地域とのつながりを大切にされた学校づくり等、社会貢献活動の実践事例を御紹介いただくとともに、後半はワークショップで参加者同士意見を交換し合った。山田先生の研修は主体的・対話的であったこと、現場では得ることのできない知識や体験談ばかりで、参加者にとって非常に有意義な時間となった。

社会貢献活動で児童・生徒が変わる

山田先生は、東京都独自教科「人間と社会」の社会体験活動について、活動前と後の児童・生徒の態度特性変化を図るため、アンケートによる調査を実施している。その中で、「活動の中で（自分が）役に立っている」「活動を通じて、自分の問題を解決することができる」「活動を行うことによって、平等な社会を作りだせる」の3項目が事後学習で大きく変化していた。これらは、自己肯定感や問題解決能力、規範意識や協調性など、社会をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力であり、その意味からも社会体験活動は教育的に重要な活動であると言える。山田先生はこの結果を「ボランティア活動の意義について、一定の理解が深まった」「事前学習の理解が、事後学習の質を規定している。」としている一方、「社会変革に対する積極性は喚起できない」「社会体験活動はどうやるか（方法）よりも、何をやるか（内容）が問題ではないか」との問題点も御指摘された。

社会体験活動とボランティア学習

山田先生は、ボランティア活動の4原則として「自分からすすんで行動する（自主性・主体性）」、「ともに支え合い、学び合う（社会性・連帯性）」、「見返りを求めない（無償性・無給性）」、「よりよい社会をつくる（創造性・開拓性・先駆性）」を挙げており、「人間と社会」の社会体験活動とはボランティア活動ではなく、ボランティア学習の一環であると述べている。ボランティア学習とは、ボランティアについての理解、社会体験活動、ボランティア活動の3つの学習を合わせたものであると定義付けており、「人間と社会」は、ボランティアについての理解と社会体験活動の学習であると位置付け、これを「サービスマーケティング」と呼んでいる。アメリカで提唱された「サービスマーケティング」とは、「社会活動を通して市民性を育む学習」という教育活動で、「教員が積極的に関わる」、「体験活動を振り返る」など、学びのサイクルを大切にしている。

また、社会体験活動は人との関わり（ネットワーク）も重要となることから、「社会関係資本」についても御講義いただいた。「社会関係資本」とは、人と人との間に形成される関係性を資本として捉え

たものである。ある地区の小学校の児童が、その地区の歴史や文化を探索し、継承に取り組む活動を通して、児童の「社会関係資本」の感覚が増進されるのか、アンケートをもとに研究した。その結果、「地域の人と、地域や学校と一緒に活動したいと思いますか」の項目が最も高い変化を示し、児童の「社会関係資本」の感覚が増進されると結論付けた。

ワークショップ

後半はワークショップ形式で、各学校における社会体験活動の実態や課題を共有して模造紙にまとめた。校種や地域によって様々な課題があり、統一した指導法や評価の難しさを感じた。一方、活動による成果や児童・生徒の充実した様子を情報共有できたことで、学校教育において社会体験活動の重要性を再認識することができた。

ワークショップの最後には、付箋に一番印象に残ったことを記し、それを持ち帰り今後の教育活動に生かすヒントとするなど、他には例を見ることがないワークショップの運営方法も学ぶことができた。

東京都専任・ボランティア教育研究会主催
(協力：東京ボランティア・市民活動センター)

都立学校教員の方、教員を目指す方、
教育関係に興味のある方 等

社会貢献活動で児童・生徒が変わる

新学習指導要領が、令和2年度より小学校で、令和3年度より中学校で、令和4年度より高等学校で全面実施されます。なかでも、特別の教科「道徳」や「総合的な学習の時間」(小・中学校)、「総合的な探究の時間」(高等学校)における指導の充実が期待されており、あわせて、社会体験活動などの体験的な学びを通して、主体的・対話的で深い学びへと、児童・生徒をいざなうことが推奨されています。

また、これからの社会をたくましく生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する方策として、社会に関わった教育課程の実現が求められています。そのため、カリキュラム・マネジメントとして、教科横断的な視点や、地域とのつながりを大切にした学校づくりが今後重要となります。

新学習指導要領の全面実施を前に、長年、ボランティア教育研究会で、都立高校における都独自教科「人間と社会」や地域連携に関わる研究されてこられた岡山大学准教授山田一隆先生をお招きし、ご講演にあわせ多くの社会貢献活動事例をご紹介するとともに、ワークショップを開催致します。

○日時
令和元年12月13日(金) 14:30~17:00
(受付は14:00~)

○場所
東京ボランティア・市民活動センターA・B会議室
(セントラル・プラザ10階)

○プログラム
14:30 開会挨拶
14:35 講演とワークショップ
(岡山大学准教授 山田 一隆 氏)
15:45 まとめ
16:55 閉会挨拶

○講師



山田一隆
岡山大学地域総合研究センター准教授
博士(教育科学)、専門社会調査士、専門は、サービス・ラーニング、ボランティア学習論、社会教育・生涯学習論、地域政策、日本福祉教育・ボランティア学習学会幹事理事、特定非営利活動法人岡山大学センター理事。2012年頃から東京都立高校「専任」(現在の「人間と社会」)に関する調査研究に取り組む。

参加費無料
(都立学校の先生は「研修出張」可能)

【申し込み・連絡先】メールにて申し込みください
東京都専任・ボランティア教育研究会事務局長
東京都立練馬高等学校 正木 成昭
お問合せ電話 03-3990-8643
申込先メール houshibora@gmail.com

【会場案内】



実践事例報告

学校間連携から見える学びの可能性 ～東京都立葛飾総合高校「福祉総合演習」の取組から～

石川 克巳（葛飾区社会福祉協議会）

1 東京都立葛飾総合高校と葛飾区社会福祉協議会との連携

葛飾区社会福祉協議会（以下、葛飾区社協という。）が行う東京都立葛飾総合高校（以下、葛飾総合高校という。）の教育活動への連携について、葛飾区社協では、第2次葛飾区地域福祉活動計画に福祉教育推進事業を重点事業として位置付け、平成21年7月「葛飾発！ 教育向け福祉×教育ハンドブック」の発行をはじめ、「福祉・ボランティア出前講座」、「福祉教育推進協力校助成」を通じて、学校における福祉教育への取組支援を行っている。

一方、葛飾総合高校は、平成19年4月に東京都東部地域に開校した全日制の総合学科高校である。生徒の興味・関心、進路希望に応じた自分だけの時間割がつくれるよう、多様な選択科目を設置している。しかし、福祉に関する科目は、専門教科「福祉」ではなく、学校設定教科「総合」として設置し、葛飾総合高校の特色の一つである地域連携を含めた授業づくりを目指している。

葛飾区社協では、福祉教育を『生活や学習の中で「福祉」を学ぶこと。「福祉」とは、「自分のしあわせ」と「みんなのしあわせ」を、共に考え、実現に向けて実践していくこととした。このことから、児童、生徒が様々な活動を通して、相手のことをよく知り、自分のことも知るという「人が共に生きる（共生）」学習』と整理した。

葛飾総合高校の『地域連携を含めた授業づくりを目指し「地域社会で、自分にできることを考え、実践する力を育てる」ことをねらいとする』教育活動が、まさに、上述の葛飾区社会福祉協議会がすすめる福祉教育への実践につながることから、平成20年4月より葛飾総合高校と福祉教育推進事業による連携を行っている。

2 学校と地域連携の学習プログラム

葛飾総合高校における学校設定教科「総合」の学校設定科目の福祉系列科目は全部で5科目（表1）あり、その学習目標は専門性を高めることに重点を置くのではなく、より多くの生徒に福祉への興味・関心をもってもらふこと、地域社会で自分にできることを考え実践する力を育てることと捉え、それ以上に多くの人たち（福祉に関わる職業の方、ボランティア活動をしている方、障害の当事者など）と出会い、直接、話を伺うなど交流や体験の機会を多くもてるような授業計画を立てている。

基礎科目の「福祉総合基礎」では、講義や体験的な学習を通じて福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術等を身に付けさせ、接し方や思いやりの態度を養う。その進化科目の「福祉総合演習」では、「福祉総合基礎」で身に付けた知識や技術をもとに、福祉に関する課題を見だし、他者理解、コミュニケーションの資質・能力の向上、自分のできることを考え主体的かつ協働的に実践する力を育み、地域福祉活動への取組を具現化している。

表 1) 福祉系選択科目

総合選択科目

基礎科目（2、3年次履修可能）	深化科目（3年次のみ履修可能）
① 福祉総合基礎	② 福祉総合演習

自由選択科目

基礎科目（2、3年次履修可能）	発展科目（3年次のみ履修可能）
点字・手話初級	地域研究
介護支援	

基礎科目「福祉総合基礎」は平成20年度より、深化科目「福祉総合演習」は平成22年度より、市民講師として担当教員とチームティーチングで取り組んでいる。

以下、本紀要では科目「福祉総合演習」について特に取り上げて紹介する。

3 学習内容

「福祉総合演習」は、福祉科の科目である「コミュニケーション技術」と「介護総合演習」の内容を合わせ、更には、地域との連携を含めた学習内容を展開させた学習計画となっている。

前期（4月～9月）は、単元名「葛総サロン“つながりの会”～笑顔をお届けます！～」とし、地域サロン活動の企画・運営を通じて、高齢者の知恵や生活力の素晴らしさを実感するとともに、一人暮らし高齢者の生活課題などにも目を向け、人や地域とのつながりを考え、主体的にできることを考え実践する力を育てることをねらいとした。

後期（10月～1月）は、単元名「“福祉について知ろう！”～福祉を身近に感じてもらう～」とし、“ふくし”について、小学校へ出向き6年生に対して出前授業を取り組むために、これまで学んだ知識や経験を“教える（伝える）”学びを深めることをねらいとした。

なお、「葛総サロン“つながりの会”～笑顔をお届けます！～」への実践については、「日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要v o 1. 2 5 / 2 0 1 5」を参照されたい。

(1) 学習活動の概要

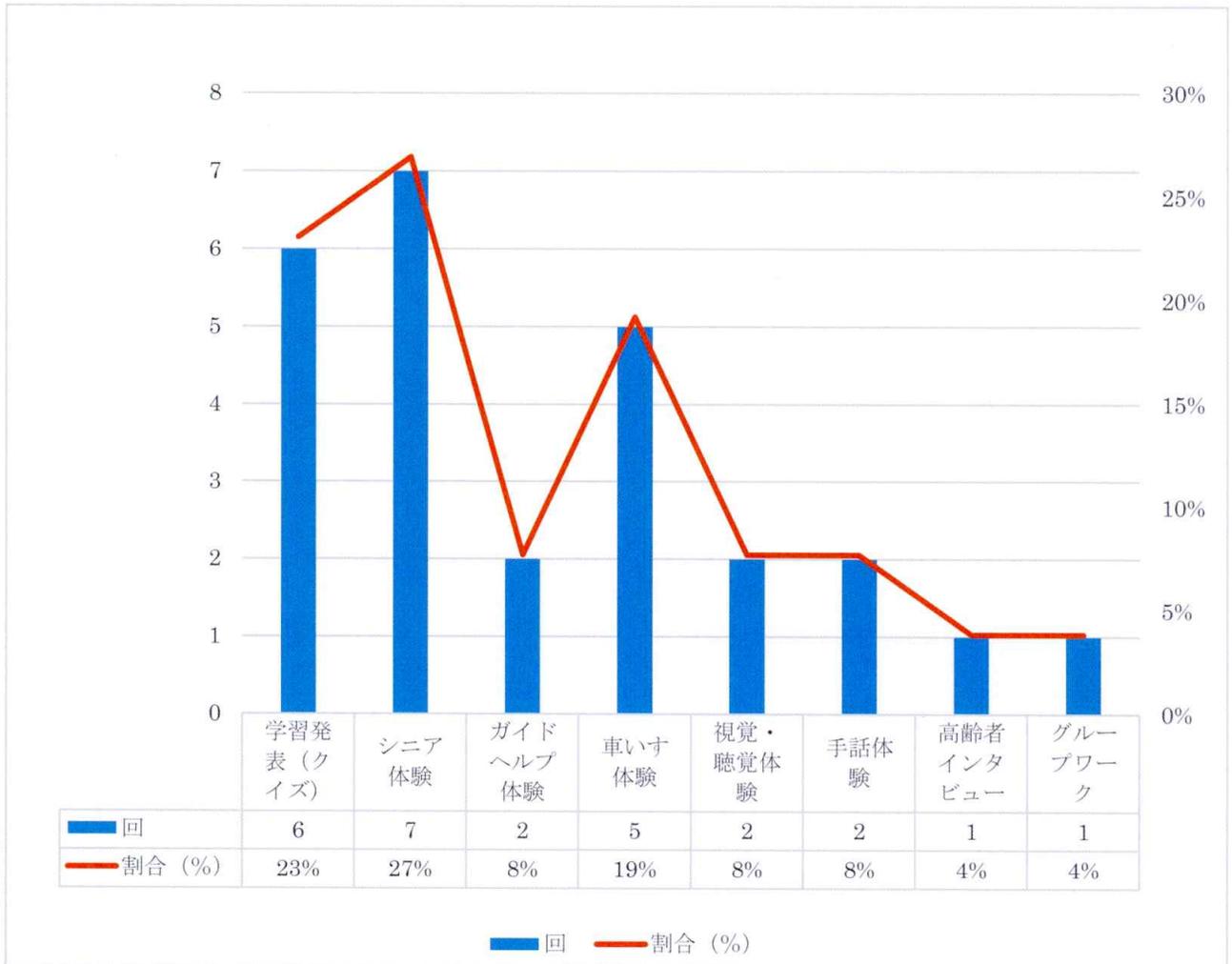
それでは、単元名「“福祉について知ろう！”～福祉を身近に感じてもらう～」の学習内活動を紹介します。

展開	進め方	内 容	備 考
第一次	全 体	◎ 出前授業へ向けての準備 ○過去の出前授業をふりかえる ○学習のねらい、身に付く力とは	
	全 体	◎ 企画づくり ① ○リーダーを決める ○何を児童に伝えるか ○どのような内容・方法で伝えるか ○役割分担 ○学習活動の検討	
	全 体	◎ 企画づくり ② ○学習活動（取り組む内容・時間配分・役割） 分担・備品類）の検討	
	グループ	◎ 学習活動の確定	
第二次	グループ	◎ 準備・調整 ①	小学校へ挨拶を兼ねた 下見（リーダー）
	グループ 全 体	◎ 準備・調整 ② ○学習指導案完成（印刷） ○全体で共有（発表）	
	グループ 全 体	◎ 準備・調整 ③ ○各グループリハーサル	
	グループ 全 体	◎ 準備・調整 ④ ○各グループリハーサル	
	グループ 全 体	◎ 全体説明（共有・確認） ○通しリハーサル	
第三次	本 番	学 年 6年生 時 間 13：20～15：00	

第一次の展開では、小学校での出前授業をすることで一人ひとりが得られる又は気付く力について、参加型学習活動のプログラム3つの力（企画・立案力、デザイン力、運営力）を用いて解説した。この学習活動を通じて、一人ひとりが考え、疑問に対しては調べ、課題の解決に向けて仲間同士で議論を交わし、分かることを整理し、できること実践していくことを確認する。続いて基礎科目「福祉総合基礎」で取り組んだテーマを振り返り、講義や体験学習の中で、生徒一人ひとりが印象に残った内容や関心のある内容を発表しながら、小学生に教える（伝える）テーマを決めていく。

表2でも分かるように、学習テーマとして選ぶ内容として、学習発表以外に一番多いのが「シニア体験」次いで「車いす体験」となっている。生徒自身が体験を通して、自分と向き合い、自分を見つめ直すことで、自分を知り、自分と違う相手を知る。そして、当事者の方とかかわる中で、自分には何ができるのかという思考力・判断力・実践力が身に付く経験を小学生に伝えたいと考える生徒が多いことが、(2)授業後、児童・生徒の気付き（感想）《生徒の感想》からでも読み取れる。

表2) 過去6年間に取り組んだ学習テーマ



第二次の展開では、生徒たちが主体的に授業を創り出す段階である。前半、小学生に教える(伝える)テーマについて、これまでの授業で学んだ「分かること・できること」を駆使し、小学生に分かりやすく知識や情報を教える(伝える)ための手法や教材の検討を中心にグループ活動で取り組んだ。また、出前授業を行う小学校にお邪魔し、校長先生をはじめ学年の先生への挨拶と会場である体育館の見学、そして学習内容の説明の後、学年の先生から児童の様子を伺い、学習活動へのモチベーションを高めていった。

後半、全体活動の各グループリハーサルでは、グループ活動で固まった学習内容を、小学生に教える想定で、それぞれ生徒が教える側と聞く側に分かれて、教える側の生徒が説明をすると、聞く側の生徒から「何を言っているかわからない」「言葉が難しい」など、教える側の生徒にとっては予想外の質問が飛んでくる。終了後、グループ活動の中で、どうすればしっかり伝えられたのか議論をし、グループごとに発表した。「実物や写真がないと教えにくい」「教える側がかなり詳しく理解していないと、うまく伝わらない」といった意見が出された。この過程を繰り返すことで、各自のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力に気付き、聞く側である小学生の気持ちになり相手を知ることによって、小学生に伝わる・分かる学習内容に変容していく。

第三次の展開は、2年次で履修した「福祉総合基礎」での学びからインプットした知識や情報などを、小学生へアウトプットする授業の段階である。対象は、小学6年生で2限連続(45分2限)の授業を行った。生徒たちは教壇に立つのは初めてのことで、最初は緊張し、上手く説明できなかったところもあった。

たが、小学生は目を輝かせながら話を聴き、体験活動に取り組む姿を生徒たちは実感し、下記の(2)からも分かるように教える側と聴く側が共感できる授業を創りあげたといえる。

(2) 授業後、児童・生徒の気付き（感想）

《児童の感想》

- ・おじいちゃんやおばあちゃんを見たら席をゆずったり、荷物を持ったりしてあげたいです。また、私のおじいちゃんの肩や腰をもんであげたいです。
- ・「心ぼそい」という言葉が印象に残り、お年寄りを助けてあげたいという思いが、以前よりも強くなりました。
- ・今日は、楽しかったし、とても勉強になりました。また、来年も来て、今の5年生にもすばらしいものを見せてあげてください。私、こんなに楽しい授業は、はじめて。
- ・学習発表では、お年寄りについて絵を使って、とても分かりやすく説明してくれました。また、お年寄りの接し方について、ゲーム形式で説明をしてくれましたので、楽しく覚えることができました。

《生徒の感想》

- ・6年生の皆さんと会うのは、とても緊張しました。一緒にシニア体験ができて、私もすごく楽しかったです。皆に質問した時に、一生懸命考えて答えてくれた内容が立派で驚きました。私が6年生の頃、皆のように答えられたかなって思いました。楽しい時間をありがとう！
- ・皆さんからの長い感想文ありがとうございました。クイズの内容が皆の心に残っているみたいで、頑張って準備をしてよかったと思います。私たちは、お年寄りのことを少ししか発表していません。お年寄りに優しくする場面はたくさんあります。何ができるか、考えてみてくださいね。
- ・出前授業の準備にあたり、グループの皆が意見を出しあい、1つの案に皆の意見が加わり、より良いものにしていくことができたと思います。元気いっぱいの6年生の皆と交流できたこと、学習発表をしたこと、どれも貴重な体験でした。
- ・皆さんの感想文を読んで、お年寄りの心や体を理解し、実際のお年寄りってどんな大変なことがあるのか体験してくれたことで、色々なことを思い、考えてくれたことが、私たちはすごく嬉しかったです。皆さんが手紙を書いたように、今回の私たちの授業をきっかけにお年寄りに優しくしてあげるといふ輪が、どんどん広がっていったら、とても素敵なことです。ぜひ、学んだことを実践してみてください。そして、お年寄りだけではなく、すべての人や生き物に優しくできる中学生になってください。応援しています。

4 学校間連携の可能性

この小学校への出前授業という学習活動を通じて、受け手側である小学校では、学年の先生から「子どもたちは色々勉強をしてみたいと前向きになったようだ」「初めての手話に関心も高まり、自宅でも親御さんに教えた子が多くいました」「教員としては、パラリンピックを見据えて授業をする上で、とても参考になりました」などの感想をいただいた。

一方、高校生側の成長については、普段の授業以上に緊張感や責任感をもって主体的・意図的・計画的に取り組むことができたのではないかと考える。それには、準備不足や考えの甘さが直接自分たちに返ってくること、特に、挨拶などで小学校へお邪魔した以降、児童や小学校の先生、そして仲間たちに迷惑をかけてはいけないという気持ちが強くなり、自己相対化が身に付き、主体性や協働性の意識が芽生え取組を通して強まっていった。

今回、紹介した事例は、葛飾総合高校と小学校の取組であるが、他に葛飾総合高校と中学校の取組もある。この取組は、総合学科の特徴である課題研究をまとめ、その成果を発表した内容を中学校で発表するという試みである。この中学校への取組は、中学校からの要望との調整もあり、まだ3校での取組となり、単発で終わっている。

このように、出前授業という取組で異校種と連携を図ることで、児童・生徒にとっては時系列（小・中・高）を意識したキャリア教育につながる機会として捉えることができる。また、異校種との連携を考える上で、小・中学校と都立学校をつなげるコーディネート機能については、仕組みや人材の確保など連携・協働体制に課題は残る。

最後に、私は、市民講師という立場で担当教員とティームティーチングを行い、社会福祉やボランティア、地域福祉活動に関する専門性を活かすとともに、地域における中間支援組織としての使命である“調整する”“つなげる”“情報発信する”という役割を果たすことができたと思う。引き続き、地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能に努めていきたい。

【参考文献】

- ・葛飾区社会福祉協議会（2009） 葛飾発！教員向け福祉×教育ハンドブック
- ・東京都立葛飾総合高等学校平成21（2009）年度 研究紀要 第2号
- ・文部科学省 平成21年7月 高等学校学習指導要領解説 福祉編
- ・葛飾区社会福祉協議会ホームページ（2012） 活動報告記
- ・日本福祉教育・ボランティア学習学会 研究紀要 v o l . 2 5 / 2 0 1 5
- ・葛飾社協だよりNo.168平成28（2016）年4月25日号
- ・全国都道府県教育長協議会 平成31年3月 地域と学校の連携・協働におけるコーディネート機能の強化・充実 ～今後、求められるコーディネーターの在り方～

高校生から小学生へのメッセージ！

葛飾総合高校と原田小学校の福祉教育活動

1月19日(火)に葛飾区立原田小学校(角田校長)で、都立葛飾総合高校

の生徒に姉さんとの活動を通して、福祉への関心や上級

学校への意識付けを図る

こと。また、高校生には、この活動を通して日頃の

学習をさらに活かしたものにしようとするところがあります。

当日は、小学生に高齢(加齢)や聴覚障がいについて理解してもらうため、シニア体験と手話体験をしてもらいました。

老化や聞こえない状態を体感することによって、高齢者や聴覚障がい者への接し方や気持ちを理解し、自分にできることは

何かを考えてもらいました。

《原田小学校児童の感想》

今まで、お年寄りのことは考えたこともなかったけど、体験を通して大変なことが分かった。街の中で困っているお年寄りの人に出会ったら、お手伝いしたい。

《葛飾総合高校生徒の感想》

6年生のみんなが、手話体験を通して、聞こえない人の気持ちを少しでも感じてくれてうれしい。みんなは、困っている人の役に立つ力をもっていることに気付いてほしいです。

この活動のねらいは、小学生には、身近な存在であるお兄さん、お

姉さんとの活動を通して、福祉への関心や上級学校への意識付けを図ること。また、高校生には、この活動を通して日頃の学習をさらに活かしたものにしようとするところがあります。

当日は、小学生に高齢(加齢)や聴覚障がいについて理解してもらうため、シニア体験と手話体験をしてもらいました。

老化や聞こえない状態を体感することによって、高齢者や聴覚障がい者への接し方や気持ちを理解し、自分にできることは

何かを考えてもらいました。

《原田小学校児童の感想》

今まで、お年寄りのことは考えたこともなかったけど、体験を通して大変なことが分かった。街の中で困っているお年寄りの人に出会ったら、お手伝いしたい。



VIOLET!! 活動紹介チラシ



中高生のボランティア団体

バイオレット
VIOLET!!

で一緒に活動しませんか？



VIOLET!!は、すみれの花言葉が「社会貢献」であることから名づけられました。
中高生にもっとボランティアの輪をひろげよう、という思いから生まれた団体です。



←2019年の夏休み、子ども食堂や、施設での楽器演奏など、グループを作って自分たちのやってみたい活動にチャレンジ。写真はごみ拾い@池袋チームの様子

→バルーンアート講習会(上)

その後、お祭りでバルーンアート

を作って配りました!(下)



↓2020年中高生ボランティアフェスティバルにて。
動物殺処分・救命救急・海洋ごみの分科会を企画!交流企画はみんなでポッチャをしました



活動内容：月1回のミーティングでみんなのボランティア活動をシェア
年1回の「中高生ボランティアフェスティバル」の企画・運営
ボランティア活動経験の有無は問いません。学校の垣根を越えて、
やってみたいことをみんなで企画して実現できます♪

活動日時：基本的に、月1回、日曜の午前中

詳しくは東京ボランティア・市民活動センターのHP(<http://www.tvac.or.jp/>)をチェック!

対象：ボランティア活動に関わっている中高生、ボランティア活動に興味のある中高生、
新しいことがしてみたい中高生、学校外で仲間をつくりたい中高生... and YOU!!!

活動場所：東京ボランティア・市民活動センター(TVAC) ほか
(新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階)
JR 飯田橋駅東口・西口徒歩3分/地下鉄飯田橋駅 B2b 出口直結

TEL.03-3235-1171/FAX.03-3235-0050

ボラ市民ウェブ

検索



中高生のボランティアネットワーク「VIOLET!! (バイオレット!!)」参加者募集!

「VIOLET!!(バイオレット!!)」に参加しませんか?

かつては学校間交流会と呼んでいましたが、“すみれ”の花言葉が「社会貢献」であることから、メンバーで話し合って「VIOLET!!(バイオレット!!)」と名付けました。

この活動は、部活・同好会・生徒会または個人でボランティア活動を行っている、またはこれからボランティアをしたいと思っている中学生・高校生が集まるネットワークです。

それぞれの活動状況を情報交換しながら、共通する悩みの解決策などを話し合ったり、一緒にボランティア活動を行ったりしています。

月1回だいたい日曜日に、ジュースやお菓子を食べながら、活動しています♪

ボランティアに興味ある中高生の飛び入り参加大歓迎です。友達と一緒にでも、一人でも大丈夫です!!

参加費無料

会場までの交通費(往復分)と「ボランティア保険」加入費はNPO法人VCASにより、補助有

対 象

ボランティアに、興味・関心のある中学生・高校生
部活の場合、顧問の先生の引率なしでも参加OKです。
サポーター(大学生ボランティア)も募集しています。

主 催

東京ボランティア・市民活動センター

企画・運営

VIOLET!!(バイオレット!!)

(“すみれ”の花言葉が「社会貢献」であることから、メンバーで話し合って名付けました。)

*その他、詳細は東京ボランティア・市民活動センター公式ホームページで御確認ください。

東京都奉仕・ボランティア教育研究会公式ホームページの御案内

東京都奉仕・ボランティア教育研究会は、公式ホームページを開設いたしました。

今後の予定や、月例会、研修会の報告や、平成23年度より作成した研究紀要などの情報を提供していきます。

ぜひ、御覧ください。

詳細は、

<http://houshibora.com>

までアクセスをお願いいたします。

令和元年度（平成31年度）東京都奉仕・ボランティア教育研究会会員名簿

役職等	氏名	所属	備考
会長	吉田 寿美	東京都立豊多摩高等学校	校長
副会長	伏見 明	東京都立永福学園	統括校長
副会長	石井 久美子	東京都立向丘高等学校	副校長
相談役	柳 久美子	東京都教育相談センター	
相談役	久保 淳	武蔵野栄養専門学校	校長
	富川 麗子	東京都立家庭・福祉（仮称）高校開設準備室	校長
	藤田 豊	東京都立新宿山吹高等学校	副校長
	神谷 画歩	東京都立府中工業高等学校	副校長
	武蔵 史朗	東京都立家庭・福祉（仮称）高校開設準備室	
	竹田 克己	東京都立東久留米総合高等学校	
	桑原 哲史	東京都立松が谷高等学校	
	塚田 行江	東京都立桐ヶ丘高等学校	
	櫻井 滉輔	東京都立白鷗高等学校	
	増田 容子	東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課	
	山田 一隆	岡山大学	准教授
	大束 貢生	佛教大学	准教授
	有馬 正史	NPO法人 さわやか青少年センター	理事長
	堀部 伸二	NPO法人 16歳の仕事塾	理事長
	石川 克己	葛飾区社会福祉協議会	係長
	谷口 陽香	東京ボランティア・市民活動センター	
	榎本 朝美	東京ボランティア・市民活動センター	
事務局長	正木 成昭	東京都立練馬高等学校	
部長	佐々木 彬人	東京都立文京高等学校	
幹事・監査	鯉 洵 健太	東京都立白鷗高等学校	
会計	板垣 慶樹	東京都立王子総合高等学校	

東京都奉仕・ボランティア教育研究会
令和元年度 研究紀要

令和2年3月発行

編集・発行 東京都奉仕・ボランティア教育研究会
事務局 東京都立練馬高等学校内
電話番号 03-3990-8643 (代)

印刷・製本 株式会社ジェー・ビー・エフ

